

第135回 日商簿記検定試験 2級 一商業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. 予約販売
 

予約販売は、先に代金を受取り、前受金（負債）として処理した後に、引き渡した分について売上を計上する。よって、 $¥3,000$ （1巻当たりの販売価格） $\times 2$ 巻 $\times 500$ セット $=¥3,000,000$ について、先に受け取った前受金を取り崩し、売上を計上する。
2. 従業員預り金及び法定福利費の納付
 

給料支払時に控除した源泉所得税、住民税および社会保険料の合計（ $¥750,000 + ¥560,000 + ¥190,000 = ¥1,500,000$ ）を従業員預り金勘定の借方に計上し、会社負担分の社会保険料 $¥190,000$ を法定福利費勘定の借方に計上し、合計額 $¥1,690,000$ を当座預金勘定の貸方に計上する。
3. 固定資産の除却
  - (1) 備品の取得原価（貸方：備品の金額）  
 $¥6,000,000$ （取得原価）
  - (2) 期首までの減価償却累計額（借方：備品減価償却累計額）  
 $¥6,000,000$ （取得原価） $\div 10$ 年（耐用年数） $\times 6$ 年（平成19年4月1日～平成25年3月31日） $= ¥3,600,000$
  - (3) 除却時の処分価額（借方：貯蔵品の金額）  
 $¥1,500,000$ （処分価額）
  - (4) 固定資産除却損  
 $¥6,000,000$ （取得原価） $- ¥3,600,000$ （期首までの減価償却累計額） $- ¥1,500,000$ （処分価額） $= ¥900,000$
4. 手形の裏書
 

商品の取得原価 $¥600,000$ を仕入勘定の借方に計上するとともに、裏書譲渡した約束手形 $¥400,000$ を受取手形勘定の貸方に計上し、残額 $¥200,000$ を買掛金勘定の貸方に計上する。また、保証債務の時価 $¥400,000$ （額面金額） $\times 3\% = ¥12,000$ を保証債務費用勘定の借方に計上するとともに、保証債務勘定の貸方に計上する。
5. 剰余金の処分
  - (1) 株主配当金（貸方：未払配当金の金額）  
 $¥5,000$ （1株あたりの配当額） $\times 4,000$ 株（発行済株式数） $= ¥20,000,000$
  - (2) 利益準備金積立額（貸方：利益準備金の金額）  
会社法の定める金額とは、資本準備金と利益準備金の合計額が資本金の4分の1に達するまで、剰余金の配当の10分の1を利益準備金として計上する必要がある。  
① 準備金の残りの要設定額  
 $¥200,000,000$ （資本金） $\times 1/4 - \{ ¥20,000,000$ （資本準備金） $+ ¥19,000,000$ （利益準備金） $\} = ¥11,000,000$   
② 配当金の10分の1： $¥20,000,000 \times 1/10 = ¥2,000,000$   
 $\therefore$  ① $>$ ②となるので、②の $¥2,000,000$ を利益準備金として積み立てる。
  - (3) 任意積立金の積立（貸方：減債積立金の金額）  
減債積立金（任意積立金） $¥12,000,000$ を積み立てる。
  - (4) 減額する繰越利益剰余金（借方：繰越利益剰余金の金額）  
 $¥20,000,000$ （配当金） $+ ¥2,000,000$ （利益準備金） $+ ¥12,000,000$ （減債積立金） $= ¥34,000,000$

第2問

1. 総勘定元帳の前期繰越
  - (1) 備品  
 $¥400,000$ （備品の取得原価）
  - (2) 備品減価償却累計額  
 $\{ ¥400,000$ （取得原価） $- ¥40,000$ （残存価額） $\} \div 6$ 年（耐用年数） $\times 3.5$ 年（取得から前期末までの使用期間） $= ¥210,000$
  - (3) 建物  
 $¥1,200,000$ （店舗の取得原価） $+ ¥800,000$ （倉庫の取得原価） $= ¥2,000,000$
  - (4) 建物減価償却累計額
    - ① 店舗  
 $\{ ¥1,200,000$ （取得原価） $- ¥120,000$ （残存価額） $\} \div 25$ 年（耐用年数） $\times 10$ 年（取得から前期末までの使用期間） $= ¥432,000$
    - ② 倉庫  
 $\{ ¥800,000$ （取得原価） $- ¥0$ （残存価額） $\} \div 20$ 年（耐用年数） $\times 2$ 年（取得から前期末までの使用期間） $= ¥80,000$
    - ③ 合計  
① $+② = ¥512,000$
2. 期中取引
  - (1) 車両の取得（平成24年5月1日）
 

(借)	車	両	500,000	(貸)	未	払	金	500,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------
  - (2) 倉庫の火災（平成24年6月30日）
 

(借)	建物減価償却累計額	80,000	(貸)	建	物	800,000
	減価償却費	10,000		仕	入	900,000
	火災未決算	710,000				
	火災損失	900,000				

    - (注1) 建物減価償却累計額： $¥80,000$ （倉庫の期首の減価償却累計額）
    - (注2) 減価償却費  
 $\{ ¥800,000$ （取得原価） $- ¥0$ （残存価額） $\} \div 20$ 年（耐用年数） $\times 3/12$ （平成24年4月1日～平成24年6月30日） $= ¥10,000$
    - (注3) 火災未決算  
火災発生時点の帳簿価額は $¥800,000$ （取得原価） $- ¥80,000$ （期首の減価償却累計額） $- ¥10,000$ （減価償却費） $= ¥710,000$ である。  
これが火災保険金額 $¥750,000$ 以内であるので、火災未決算 $¥710,000$ とする。
    - (注4) 仕入・火災損失  
 $¥900,000$ （商品）
  - (3) 手付金の支払（平成24年7月20日）
 

(借)	建設仮勘定	100,000	(貸)	現	金	100,000
-----	-------	---------	-----	---	---	---------
  - (4) 保険金の受取（平成24年9月10日）
 

(借)	当座預金	600,000	(貸)	火災未決算	710,000
	火災損失	110,000			

    - (注) 火災損失： $¥710,000$ （火災未決算） $- ¥600,000$ （保険金査定額） $= ¥110,000$

(5) 建物の完成 (平成24年10月1日)

(借) 建物	1,000,000	(貸) 建設仮勘定	100,000
		当座預金	900,000

(注) 建物: ¥100,000 (手付金) + ¥900,000 (残金) = ¥1,000,000

(6) 決算整理 (平成25年3月31日)

① 備品

(借) 減価償却費	60,000	(貸) 備品減価償却累計額	60,000
-----------	--------	---------------	--------

(注) 減価償却費

{¥400,000 (取得原価) - ¥40,000 (残存価額)} ÷ 6年 (耐用年数) = ¥60,000

② 建物

(借) 減価償却費	68,200	(貸) 建物減価償却累計額	68,200
-----------	--------	---------------	--------

(注1) 店舗の減価償却費

{¥1,200,000 (取得原価) - ¥120,000 (残存価額)} ÷ 25年 (耐用年数) = ¥43,200

(注2) 倉庫の減価償却費

{¥1,000,000 (取得原価) - ¥0 (残存価額)} ÷ 20年 (耐用年数) × 6/12 (平成24年10月1日 ~ 平成25年3月31日) = ¥25,000

(注3) 減価償却費合計: ¥43,200 (店舗) + ¥25,000 (倉庫) = ¥68,200

③ 車両

(借) 減価償却費	90,000	(貸) 車両減価償却累計額	90,000
-----------	--------	---------------	--------

(注) 減価償却費

{¥500,000 (取得原価) - ¥50,000 (残存価額)} ÷ 100,000キロメートル (走行可能距離) × 20,000  
キロメートル (当期の走行距離) = ¥90,000

3. 平成24年度に発生した火災損失

¥900,000 (商品) + ¥110,000 (建物) = ¥1,010,000

第3問

1. 配当金領収書の未処理

(借) 現金	10,000	(貸) 受取配当金	10,000
--------	--------	-----------	--------

2. 当座預金の不一致

(1) 未取付小切手 (買掛金の支払)

仕訳なし
------

(2) 未渡小切手 (広告宣伝費の支払)

(借) 当座預金	450,000	(貸) 未払金	450,000
----------	---------	---------	---------

(注) 費用の支払に関する未渡小切手は、当座預金を増加させるとともに、未払金を計上する。

(3) 当社側未記帳 (約束手形の取立)

(借) 当座預金	300,000	(貸) 受取手形	300,000
----------	---------	----------	---------

3. 貸倒引当金

(借) 貸倒引当金繰入	21,000	(貸) 貸倒引当金	21,000
-------------	--------	-----------	--------

(注1) 貸倒引当金の要設定額

{¥1,500,000 (残高試算表の受取手形) + ¥2,500,000 (残高試算表の売掛金) - ¥300,000 (当社側未記帳)} × 3% = ¥111,000

(注2) 貸倒引当金繰入

¥111,000 (要設定額) - ¥90,000 (残高試算表の貸倒引当金) = ¥21,000

4. 売上原価の計算および商品の評価

(借) 仕入	1,960,000	(貸) 繰越商品	1,960,000
繰越商品	2,200,000	仕入	2,200,000
棚卸減耗損	100,000	繰越商品	100,000
商品評価損	126,000	繰越商品	126,000

(注1) 期末商品帳簿棚卸高

1,100個 (帳簿棚卸数量) × @¥2,000 (原価) = ¥2,200,000

(注2) 棚卸減耗損

{1,100個 (帳簿棚卸数量) - 1,050個 (実地棚卸数量)} × @¥2,000 (原価) = ¥100,000

(注3) 商品評価損

900個 (実地棚卸数量) × {¥2,000 (原価) - ¥1,920 (正味売却価額)} + 150個 (実地棚卸数量) × {¥2,000 (原価) - ¥1,640 (正味売却価額)} = ¥126,000

※ 商品の評価については、先ず数量計算から行いその後、価格計算を行うことに注意する。

5. 売買目的有価証券

(1) 時価評価

(借) 売買目的有価証券	21,500	(貸) 有価証券評価益	21,500
--------------	--------	-------------	--------

(注) 有価証券評価益

① 時価合計: ¥328,000 (A社株式) + ¥394,000 (B社株式) + ¥499,500 (C社株式) = ¥1,221,500

② 評価差益: ¥1,221,500 (時価) - ¥1,200,000 (帳簿価額) = ¥21,500

(2) 利息の見越し

(借) 未収有価証券利息	4,000	(貸) 有価証券利息	4,000
--------------	-------	------------	-------

(注) 未収有価証券利息

¥500,000 (C社社債の額面金額) × 1.6% (利率) × 6/12 (10月~3月) = ¥4,000

## 6. 減価償却費

(借) 減 価 償 却 費	453,600	(貸) 建物減価償却累計額	300,000
		備品減価償却累計額	153,600

(注1) 建物減価償却費

$$¥10,000,000 \text{ (残高試算表の建物)} \times 90\% \div 30 \text{年 (耐用年数)} = ¥300,000$$

(注2) 備品減価償却費

$$\{ ¥1,500,000 \text{ (残高試算表の備品)} - ¥732,000 \text{ (残高試算表の備品減価償却累計額)} \} \times 20\% \text{ (定率法償却率)} = ¥153,600$$

## 7. 社債

(1) 社債の償却原価法

(借) 社 債 利 息	12,000	(貸) 社 債	12,000
-------------	--------	---------	--------

(注)  $¥6,000,000 \text{ (額面総額)} \times 0.01 \text{ (金利調整差額)} \div 5 \text{年 (償還期間)} = ¥12,000$

(2) 未払社債利息の計上

(借) 社 債 利 息	25,000	(貸) 未 払 社 債 利 息	25,000
-------------	--------	-----------------	--------

(注)  $¥6,000,000 \text{ (額面総額)} \times 1\% \text{ (利率)} \times 5/12 \text{ (11月～3月)} = ¥25,000$

(3) 社債発行費の償却

(借) 社 債 発 行 費 償 却	24,000	(貸) 社 債 発 行 費	24,000
-------------------	--------	---------------	--------

(注)  $¥108,000 \text{ (残高試算表の社債発行費)} \div 54 \text{ヶ月 (残存償還期間)} \times 12 \text{ヶ月 (当期)} = ¥24,000$

## 8. 保険料

(借) 前 払 保 険 料	180,000	(貸) 保 険 料	180,000
---------------	---------	-----------	---------

(注) 残高試算表の保険料は、期首(4月1日)の再振替仕訳により計上された3ヶ月分と7月1日に受け取った12ヶ月分の合計15ヶ月分が計上されている。

よって、1ヶ月分の保険料は $¥900,000 \div 15 \text{ヶ月} = ¥60,000$ であるので、決算整理仕訳で翌期の3ヶ月分繰り延べる。

$$¥60,000 \text{ (1ヶ月分の保険料)} \times 3 \text{ヶ月} = ¥180,000$$

## 9. 当期純利益

$$¥48,559,500 \text{ (収益合計)} - ¥46,446,600 \text{ (費用合計)} = ¥2,112,900$$